地方創生 第12回

第2期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

美幌町総務部政策課政策統計グループ

はじめに

美幌町は、北海道の東部、オホーツク管内のほぼ中央部に位置し、女満別空港が近く、石北本線や国道４路線、道道６ 路線が縦横断する道東の交通の要衝となっています。

主な産業は農林業で農業では、小麦、てん菜、馬鈴しょ、玉ねぎなどが主に生産され、これらの農産物を原料とする加工業も多くあり、林業では、豊富な森林資源を地域の活性化に役立てるため、世界基準の森林認証を取得し、木材の高付加価値化、ブランド化を図っています。

また、美幌町には、海軍航空隊時代から歴史がある陸上自衛隊美幌駐屯地が存置し、災害派遣活動などにより地域と密接な関係を築いています。

美幌町の人口は、1985（昭和60）年を境に減少傾向が続き、2022年３月31日現在、18,349人となっており、2040年には１万２千人程度まで減少するとの推計があります。加えて、首都圏や札幌市などの都市圏への人口流出に歯止めがかからない状況にあります。

第２期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、美幌町の住みよさや魅力を次世代に向けて高め、人口減少や少子高齢化が急速に進む社会情勢においても高い持続性・自立性を確保していくまちづくりを目指すため、2020年３月に策定しました。

美幌町版総合戦略の位置付け

美幌町の総合的な振興・発展を目的とした最上位計画である第６期美幌町総合計画が、平成28年度を始期として策定されたことを受け、その政策・施策の方向性を踏まえながら、「まち・ひと・しごと創生法（平成26年11月28日法律第136号）」の目的に則り、美幌町人口ビジョンにおいて展望した将来人口に向けて、人口減少対策・地方創生を目的として策定しています。

美幌町位置図

美幌町人口ビジョンについて

1 現状と課題の整理

日本で2008（平成20）年に始まった人口減少は、本町においては1985（昭和60）年から既に始まっていました。この減少傾向は、死亡数が出生数を上回る自然減と、転出者数が転入者数を上回る社会減の状況が続いていることが原因となっています。

総人口の推移に影響を与える自然増減については、2008～2012（平成20～24）年の合計特殊出生率の平均が「1.64」となっており、全国及び北海道と比べて高い水準を保っていますが、2004（平成16）年以降、出産可能年齢人口が減少するとともに高齢化が進む中で、出生数が死亡数を下回る自然減に転じ、その差は年々拡大しています。

社会増減については、1980（昭和55）年から2014（平成26）年に至るまで、転出超過の状況が続いています。年齢階級別の人口移動では、50代の男女において転入超過がわずかにあるものの、10代から20代前半における転出超過が著しいことから、総人口の減少に大きな影響を与えています。10代～20代の転出超過は、進学や就職を機に転出する状況が多いことが推測され、その結果、年齢階級別の就業者数についても、若い世代の減少傾向が続いており、就業者全体の高齢化も進んでいます。

また、若い世代の中でも、特に20代女性の転出超過の傾向は、出生数低下の一因になっていると考えられ

美幌峠

ます。将来人口の推計について、町独自で推計したものでは、2040（令和22）年の総人口は、2010（平成22）年から44.6％の減少となり、その中でも20～39歳の女性人口は62.2％の減少が見込まれており、その減少幅が特出しています。以上のことから、本町は、人口減少の進行により、少子高齢化、若年世代の流出による就業人口の減少、経済規模の縮小へとつながっていき、更なる人口の減少を招く悪循環に陥る事態に直面しています。

そして、人口減少に歯止めをかけるには、長い時間を要します。各種の出生率向上対策を講じても、その成果が上がるまでには一定の時間がかかりますし、数十年間の出生数を決める親世代の人口は既に決まっているため、人口規模が概ね安定して推移する状態（定常人口）に達するためには、数十年を要することになります。そのため、人口減少への対応は早期にかつ長期的に実施する必要があります。対策が早く講じられ、出生率が早く向上するほど、将来人口に与える効果は大きくなります。同時に、将来人口を担う出生数の規模を決定する若年世代の流出を抑えることも重要です。

このような状況を踏まえ、人口減少への対策として、次のように取り組んでいきます。

2 基本姿勢

現状と課題を踏まえ、町民とともに的確な施策を展開し、人口減少を抑制するためには、今後の取り組みにおいて、次の基本姿勢を保ちます。

(1)　自然減への対応

出生率を高め、人口の維持に向けた出生数を確保するため、結婚・出産・子育て世代の人数を保つとともに、個人の結婚の希望をかなえ、それぞれの家庭が望んでいる子どもの数どおり、子どもを産み育てることができるまちづくりを目指します。

(2)　社会減への対応

転出をできるだけ抑制し、転入者数を増やしていくために、美幌町で生まれた子ども達が、進学、就業、更には結婚し家族を形成するなかで、美幌町内で住み続けられる環境づくりを目指します。

また、誰もがいつまでも安心して働き、暮らせるまちづくりを進めることで、町外からも美幌町での生活を望んで転入してくる人達を増やすとともに、美幌町の魅力を町内外に発信し、交流人口の増加を目指します。

3 目指す姿とその実現に向けた方向性

美幌町の目指すべき姿を、本町の最上位計画である第６期美幌町総合計画の方向性と整合をとり、「未来に向けて高い持続性と自立性を保った魅力的な地域社会」とします。

このような地域社会の実現に向けて、人口減少の流れを抑制するために、以下の方向性を定めます。

(1)　地域の資源や特性を活かし、生き生きと働くことのできる就業の場の確保

豊かな自然環境をはじめ、空港の近さや整備された道路網などの立地･アクセスの良さ､農業や林業といった風土を活かした基幹産業など、本町が持つ地域資源や特性を守り育てるとともに、ニーズに応じた就業への支援や企業・官公庁の誘致による就業の場の確保を行います。

(2)　結婚・出産の希望の実現と地域全体による子育ての環境づくり

人口減少対策とは､出生率を向上させることにより、将来的に人口構造そのものを変えていくことですので、若い世代が希望する結婚や出産を支える施策を推進します。

また、地域の子育て支援の仕組みを充実させることで､仕事と家庭の両立しやすい環境づくりを推進します。

(3)　将来にわたって暮らし続けることのできる生活環境の確保

若い世代の定着を目指し、地元学校や経済界と連携し、地元進学率・就職率の向上や、商店街の魅力を高めることで、地元で暮らしたいという人を増やし、その希望を実現する施策を推進します。

また、子育て世代が、自分たちの子どもに、将来住み続けて欲しいと思える環境づくりを目指し、ニーズを拾い上げ有効な施策の選択と実行に取り組みます。

美幌町人口ビジョンを踏まえた第２期戦略の方向性

「美幌町人口ビジョン」による考察結果踏まえ、20代～30代の転出入者が多いこと、19歳以下の未成年とその親世代である40代の転出超過が著しいことから、第２期総合戦略策定にあたっては、若年層を対象とした施策に絞り込みを行いました。

数値目標・重要業績評価指標の設定にあたっては、

相関性をより意識した見直しを行いました。更に、施策及び具体的事業掲載にあたっては、ライフステージや分野ごとなど、戦略を見る側の視点からもよりわかり易い総合戦略となるよう体系や表現の見直しを行い、住民等の多様な主体で構成される美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会でより実効的で深い議論を行い、官民連携した戦略推進を目指します。

また､国際社会全体で取り組むこととされている｢持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）｣で掲げられる理念を取り入れながら、政策・施策に取り組んでいきます。

基本戦略について

○基本目標１　地域の基幹産業を守り育て、強化するとともに新たな産業と雇用の場をつくる

美幌町の基幹産業である農林業においては、地域資源を改めて見つめ直し、付加価値向上、新商品開発化や産業間連携による地域経済の更なる活性化を目指します。また、観光業においては、女満別空港への距離や道東地区の交通の要衝であることなど当町の地理的優位性を活かし、今ある地域資源を起点として、更に新たな魅力づくりや滞在型観光など経済波及効果を求めた観光施策に取り組みます。これらの産業の強化を通して、新たな就業者の獲得と雇用を創出するとともに雇用の安定化､地域経済の向上を図ります。同時に、意欲ある人材が美幌町において活躍できる環境整備に努めます。

施策１　農林業における経営の強化・人材の確保

持続的で安定した経営のための担い手確保・育成、技術支援など包括的な支援を実施します。

施策２　商工業における経営の強化・雇用の確保

地元企業の育成、経営基盤の強化を図り、意欲ある人材が活躍できるよう環境整備に努めます。

施策３　地域資源を活かした観光の推進

地域資源の特色を活かした魅力ある観光地づくりの推進・ＰＲにより、交流人口の増加を図ります。

移住体験住宅

○基本目標２「びほろ」らしさを活かして、ひとを呼び込み・呼び戻す

美幌町における人口の社会増減は、ほとんどが北海道内の移動であり、その中でも30代までの人口移動が多い状況となっています。特に20代の転出入が多いため、この世代を中心とした定住促進を図ることで、社会減少が抑制され、その後の人口の自然増加につながると考えられるため、若年から子育て世代を中心とした定住促進策を推進します。

また、美幌町での暮らしやすさや魅力を全国各地に向けて発信し、新たな「ひと」の流れづくりを推進します。

更に、基幹産業である農林業と自衛隊駐屯地を抱える美幌町は、その特長と基盤を活かし、企業及び政府関係機関の誘致に努めることにより、人口減少の抑制対策にあたります。

施策１ 移住相談窓口の整備

本町は空港が近距離にあること、道路網が整備されていること、生活環境が整っていることなどの優位性を活かし、移住促進のための施策を推進します。

施策２ 移住促進・住環境による転出抑制支援

町外からの移住促進、住環境支援による町外への転出抑制のための施策を推進します。

施策３ 企業・政府関係機関の誘致

基幹産業である農林業と自衛隊駐屯地の一層の充実を図り、東京一極集中問題に対応するため、企業及び政府関係機関の誘致に努めます。

○基本目標３　このまちで出会い結婚し、子どもを生み育てたいという希望をかなえる

美幌町は全国・北海道に比べて高い合計特殊出生率を誇っていましたが、人口規模が長期的に維持される水準である2.07を大きく下回る状況が続いています。しかし、アンケート調査における希望する子どもの数は、平均して2.5 人となっており、実態と希望が合っていな

美幌町GIGAスクール

い状況となっています。そのため、妊娠から出産、保育に至るまでの子育て環境の整備や、教育環境全般にわたる施策の充実を図ることによって、美幌町で子どもを生み育てたいという環境づくりに取り組みます。

また、結婚を望む男女の希望をかなえるため、出会いから結婚までのサポート体制を整えます。

施策１　結婚までの支援

結婚を望む男女の希望をかなえるため、出会いの場の設定や出会いから結婚までのサポート体制を整えます。

施策２　出産、子育て支援（中学生まで）

それぞれの家庭が希望している子どもの数どおりに子どもを生み育てることができる環境整備に努めます。

施策３　教育環境の充実

未来を担う子どもたちに、学力的・社会的・職業的な向上・自律に向けて、産学官と連携し、必要な能力や資質が育つよう、魅力的な教育環境を整備します。

○基本目標４　住み続けたいと思える生活環境を整える

美幌町が高い持続性・自立性をもって次世代につなげていくためには、住民にとって住み続けたいと思える生活環境が必要です。平成30 年に実施した町民アンケートによると、年齢が下がるにつれて住みごこちの良さの割合が下がる傾向にありました。とくに10代～30代までの若年層では８割を切る結果となっていることから、産官学等と若者が連携し、若者世代が将来を見据えた住みよいまちづくりを自ら考え、実践できる体制を整えます。地域や未来を担う「人づくり」と経済活性化による「しごとづくり」を好循環させる「まちづくり」を推進し、美幌町が全ての住民にとって住みよいまちとなることを目指します。

施策１　若年層の雇用創出

若者や子育て世代にとって、住み続けたいと思えるようなまちとなるよう、雇用の場を創出します。

施策２　若者のまちづくり活動の推進

若者や子育て世代にとって、住み続けたいと思えるようなまちとなるよう、住民参画のまちづくり活動を推進します。

施策３　防災体制の充実による安心安全なまちづくり

集中豪雨や暴風雪など町民の日常生活に大きな影響を与える災害被害を最小限に抑えるため、各家庭や自治会、警察や消防及び自衛隊など関係機関が連携した防災体制の強化を図り、町民の自主的な取り組みに対して支援を行います。

おわりに

本町では、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関連したさまざまな施策に取り組んでおりますが、実施事業の中でＰＲさせていただきたい事業がありますので、ご紹介させていただきます。

今年度、本町では、「女満別空港が近距離にあること、道路網が整備されていること、生活環境が整っていること等」の優位性を活かし、美幌みどりの村森林公園にある休憩施設を「移住相談拠点施設」として改修し、本町への移住を検討されている方への各種相談受付、カフェ機能を備えたテレワークスペースの管理運営、企業のワーキングスペースとしての利用促進を図るプロモーション活動等を民間事業者と連携のうえ実施します。

この施設は木造平屋建で、床面積は216㎡。フロアは、新型コロナウイルス感染防止に配慮した設計とし、最大50人が一度に使える広さとなっております。窓からは本町の田園風景や美幌峠、藻琴山、斜里岳、知床連山を見ることができ、都会では体験することができない眺望の良さが大きな特徴となっております。

この移住相談拠点施設を施設利用者や町民の交流の場として活用していくとともに、美幌町での暮らしやすさや魅力を全国各地に向けて発信し、新たな「ひと」の流れづくりを推進いたします。

整備完了後、本町のホームページ等で周知いたしますので、ぜひお立ち寄りいただければ幸いです。

アスパラ畑

移住相談拠点施設（改修前）